

原発関連の動き

(赤：国外関連、青：地震など関連情報、緑：事故など)

「2022 月 8 月」

2022年

- 8 月 1 日 関西電力の八木誠元会長や岩根茂樹元社長らが、原子力発電所がある福井県高浜町の元助役から多額の金品を受け取り、元助役の関係する企業に工事費を水増しして発注した特別背任などの疑いで、市民団体に刑事告発されていた関西電力の旧経営陣らを大阪地検が不起訴処分としたことについて、検察審査会が、元会長や元社長らを「起訴すべき」と議決した。
- 8 月 1 日 関西電力が、定期検査中の美浜原発 3 号機の原子炉補助建屋内で、放射性物質を含む水約 7000 リットルが漏れたと発表した。放射能は推計で 220 万ベクレル。外部へは漏れていない。
- 8 月 2 日 鹿児島市で川内原発の運転延長の可否を検証する県の専門委員会の分科会が開かれた。九州電力側は、運転の延長に必要な「特別点検」の途中経過を初めて示し、1号機の原子炉圧力容器について「問題となる欠陥は認められなかった」とした。一方、運転延長の可否を検証する委員からは、根拠となる詳しいデータなどを示すよう求める声が出た。
- 8 月 2 日 浜岡原発 4 号機が来年 9 月に運転開始から 30 年となることを受け、中部電力は経年劣化への保全対策について、静岡県に対し冷温停止状態のまま点検や補修・部品の取り替えなどを行えば、今後 10 年も機器や建物の安全性に問題がないと報告した。
- 8 月 2 日 福島第一原発の汚染処理水海洋放出計画について、福島県の内堀雅雄知事と双葉町の伊沢史朗町長、大熊町の吉田淳町長が放出に必要な設備の着工を了解すると東電に伝えた。
- 8 月 2 日 佐賀県原子力環境安全連絡協議会が開かれた。山口知事は玄海原発の重大事故を想定した避難計画について、新型コロナ対策や避難時の渋滞など課題を挙げながら「万が一が起きた時にいろんな手段を持っておきたい」とし改善を重ねていく考えを示した。
- 8 月 2 日 IAEA のグロッシ事務局長が、ウクライナに侵攻したロシア軍が占拠した欧州最大のザポリヰャ原子力発電所について、「完全に制御不能」な状況だと明らかにした。
- 8 月 3 日 午前 8 時 47 分ごろ、福島県沖を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは 4.8 と推定。福島県いわき市、白河市、田村市、川俣町、古殿町、福島広野町、檜葉町、川内村、大熊町で震度 3。

- 8月3日 福島第一原発の汚染処理水を巡り、東京電力が海洋への放出に必要な工事を4日にも始める方針を明らかにした。
- 8月3日 8月12日に予定していた、美浜原発3号機の運転再開が、水漏れのために延期された。
- 8月4日 午前1時41分ごろ、宗谷地方北部を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは3.7と推定。北海道幌延町で震度4、北海道天塩町で震度3。
- 8月4日 午前1時59分ごろ、宗谷地方北部を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは3.4と推定。北海道幌延町で震度3。
- 8月4日 午前9時48分ごろ、福島県沖を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは5.6と推定。宮城県石巻市、丸森町、福島県福島市、相馬市、二本松市、田村市、南相馬市、福島伊達市、桑折町、国見町、川俣町、泉崎村、檜葉町、双葉町、浪江町で震度4、東北広域で震度3。
- 8月4日 東京電力が、福島第一原発の汚染処理水の海洋放出に向け、海底トンネルなどの工事を始めた。
- 8月4日 福島第一原発事故による放射性物質の影響で腐葉土の生産ができなくなったとして那須塩原市の女性が東電に対し約5500万円の損害賠償を求めた訴訟の判決で、宇都宮地裁が、約350万円の支払いを命じた。
- 8月5日 (情報錯綜)ウクライナ南部のザポリージャ原子力発電所で火災が発生し、送電線が損傷したと報じた。原発を占拠するロシア軍と、近隣に拠点を維持するウクライナ軍の双方が、「相手が砲撃を仕掛けてきた」と非難しあっている。原発の運転主体のウクライナ国営原子力企業エネルゴアトムは同日、ロシア側からの原発敷地内への砲撃は計6発で、計6基ある原子炉のうち1基付近にも飛来したと通信アプリで発表した。
- 8月6日 77年前の1945年8月6日午前8時15分、広島市へ原子爆弾が投下された。
- 8月6日 IAEAのグロッシ事務局長が、ザポリージャ原発が5日に砲撃を受けたことについて、「原発災害のリスクを明確に示している」と警告し、ロシアとウクライナ双方に「最大限の自制」を求めた。また、原発への攻撃は「壊滅的な結果をもたらす」と述べ、「安全性を危険に晒す軍事行動は全く容認できない」と非難した。
- 8月6日 (情報錯綜)ウクライナの国営原子力企業「エネルゴアトム」が、ロシア軍が占拠する南部ザポリージャ原子力発電所に6日夜、露軍が砲撃し、使用済み核燃料の貯蔵施設付近に着弾したと発表した。

- 8月6日 21時23分ごろ、茨城県沖を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは4.9と推定。茨城県ひたちなか市、東海村で震度3。
- 8月7日 22時41分ごろ、北海道東方沖を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは5.9と推定。北海道根室市、浜中町、標茶町、別海町、中標津町、標津町、羅臼町で震度3。
- 8月8日 午前5時40分ごろ、浜岡原発のデータを原子力規制庁に自動で送る「緊急時対策支援システム」ができないトラブルが発生した。
- 8月8日 ウクライナ国営原子力企業エネルゴアトムのペトロ・コティン総裁が、ザポロジエ原子力発電所の安全性を確保するために、現地に平和維持チームを派遣するよう呼びかけた。ロシアの在ウィーン国際機関常駐代表は、国際原子力機関によるザポロジエ原発の訪問を受け入れる用意があると表明した。
- 8月9日 午前7時半すぎ、福島第一原発の除染装置にたまっている高濃度物質を洗浄した水(約12トン)の漏洩が確認された。確認された水は除染装置のタンクを洗浄する際に使用されたもの。
- 8月9日 77年前の1945年8月9日午前11時2分、長崎市へ原子爆弾が投下された。
- 8月9日 定期検査を実施していた玄海原発4号機が通常運転に復帰した。原子炉内の燃料集合体は全193体のうち、76体を新燃料に取り換えた。
- 8月10日 関西電力が、大飯原発4号機のテロ対策施設「特定重大事故等対処施設」の運用を開始した。4号機の特重の設置期限は今月24日で、期限内に特重の運用開始したのは全国の原発で初めて。
- 8月10日 (情報錯綜)ウクライナ南東部ドニプロペトrowsk州のレズニチェンコ知事が、ザポロジエ原発を占拠しているロシア軍の砲撃により、原発の対岸にある複数の町で市民計13人が死亡したと明らかにした。
- 8月11日 午前0時35分ごろ、宗谷地方北部を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは5.1と推定。北海道上川中川町で震度5弱、北海道音威子府村、遠別町、天塩町、豊富町で震度3。
- 8月11日 午前0時53分ごろ、宗谷地方北部を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは5.3と推定。北海道上川中川町で震度5強、北海道遠別町、猿払村、豊富町、幌延町で震度4、北海道稚内市、音威子府村、初山別村、天塩町、浜頓別町、中頓別町で震度3。
- 8月11日 午前1時04分ごろ、宗谷地方北部を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは4.0と推定。北海道上川中川町で震度3。

- 8月11日 午前2時14分ごろ、宗谷地方北部を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは4.6と推定。北海道上川中川町で震度4。
- 8月11日 午前2時39分ごろ、宗谷地方北部を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは3.2と推定。北海道上川中川町で震度3。
- 8月11日 (情報錯綜)ウクライナの親ロシア派勢力が、ウクライナ軍が同国南東部のザポリージャ原発を再び砲撃したと発表した。砲弾5発が放射性廃棄物を保管している場所のすぐ近くなどに着弾したという。一方のウクライナ当局は、攻撃はロシア側によるものだとしている。
- 8月11日 国連安全保障理事会が、ロシアが占拠するウクライナ南東部のザポリージャ原発に砲撃が相次いだことを受け、公開会合を開いた。原子力災害発生への懸念が強まる中、オンラインで出席した国際原子力機関のグロッシ事務局長は、ロシアとウクライナに対し「一刻も早い査察の許可を」と訴えた。
- 8月12日 (情報錯綜)国連のグテーレス事務総長はウクライナのザポリージャ原発への攻撃を即時停止することを要請した。声明で、安全確保のため原発周辺に非武装地帯を設定するよう求めたが、ロシアは拒否した。
- 8月12日 初入閣した秋葉賢也復興相と西村明宏環境相が、それぞれ福島県庁で内堀雅雄知事と面会した。秋葉復興相は、特定復興再生拠点区域での生活再建や拠点外区域の避難指示解除について「現場主義で地域の実情の把握に努める」と強調した。
- 8月12日 関西電力が、大飯原発4号機の定期検査を終え、営業運転に入ったとした。定検中に原子炉起動などの際に使うポンプの配管から水漏れが見つかり、交換していた。
- 8月14日 日本時間午前4時26分ごろ、サハリンの沿岸でマグニチュード5.1の地震が発生した。
- 8月14日 日本時間午前11時47分ごろ、インドネシアの沿岸でマグニチュード5.7の地震が発生した。
- 8月14日 日本時間午前11時52分ごろ、バヌアツ沿岸でマグニチュード5.9の地震が発生した。
- 8月14日 19時14分ごろ、石川県能登地方を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは4.1と推定。石川県珠洲市で震度3。
- 8月14日 日本時間22時44分ごろ、ニュージーランドのケルマディック諸島の南部でマグニチュード6.4の地震が発生した。
- 8月15日 19時56分ごろ、鳥取県中部を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは3.8と推定。鳥取県倉吉市で震度3。
- 8月15日 日本時間午前6時4分ごろ、太平洋のニューカレドニア沿岸でマグニチュード6.2の地震が発生した。

- 8月15日 国連が、ザポリージャ原発をめぐり、グテレス事務総長とロシアのショイグ国防相が電話会談したと発表した。安全な操業に向けた条件などを協議したという。
- 8月16日 18時54分ごろ、宗谷地方北部を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは4.1と推定。北海道上川中川町、天塩町で震度3。
- 8月16日 定期検査中の美浜原発3号機で放射性物質を含んだ水が漏れた問題で、容器のふたを締め付けるボルトを規定よりも弱い力で締めたことが漏水の原因だったことがわかった。原子炉格納容器などを追加点検するため、発送電再開の日程は未定としている。
- 8月16日 中国・広東省にある台山原子力発電所が、1年以上にわたる「保守管理」のための運転停止を経て再稼働した。
- 8月16日 (情報錯綜)ウクライナの国営原子力企業エネルゴアトムが、自社のウェブサイトが「前例のない」サイバー攻撃を受けたことを明らかにした。ただ、運用に支障は出ていないとしている。
- 8月17日 原子力規制委員会が、柏崎刈羽原発の6号機と7号機に関するテロ対策施設の設置計画について。対策施設の基本設計をまとめた設置計画についても“新規制基準に適合している”として、委員全員の一致で“合格”とした。
- 8月17日 福井県と嶺南6市町が、原発から5キロ以上30キロ以内で「安定ヨウ素剤」の事前配布を希望する住民を対象に受け付けを始めた。
- 8月17日 京都府舞鶴市が、高浜原発5キロ圏内周辺の住民に事前配布している安定ヨウ素剤を更新する、と発表した。使用期限が切れるため、6地区の230世帯491人分が対象。
- 8月18日 日本時間午前11時10分ごろ、チリでマグニチュード5.7の地震が発生した。
- 8月18日 13時06分ごろ、千葉県東方沖を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは5.0と推定。茨城県神栖市、千葉県銚子市、旭市、香取市で震度3。
- 8月18日 14時46分ごろ、福島県沖を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは5.3と推定。宮城県石巻市、福島県、相馬市、楡葉町、浪江町で震度4、岩手県、宮城県、福島県の広域で震度3。
- 8月18日 16時11分ごろ、沖縄本島近海を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは4.3と推定。沖縄県本部町、恩納村で震度3。
- 8月18日 西村康稔経済産業相が、就任後初めて福島県を訪れ、内堀雅雄知事と面会した。福島第一原発の処理水放出方針について「県漁連に対する関係

者の理解なしには、いかなる処分も行わないとの方針はしっかり順守していく」と述べた。

- 8月18日 ウクライナのゼレンスキー大統領、国連のグテーレス事務総長、トルコのエルドアン大統領が会談した。ロシア軍の占拠下で砲撃が相次ぐ南東部ザポリージャ原発の安全確保などに向けて協力すると合意した。
- 8月19日 原子力規制庁の職員が静岡県御前崎市を訪れ、浜岡原発4号機の安全審査について途中経過を説明した。審査中に説明会を開くのは異例。
- 8月19日 九州電力が、玄海原発で事故が発生した際に必要となる業務をまとめた「原子力事業者防災業務計画」を修正し、首相と原子力規制委員会に届けた。原子力災害時の医療体制の充実を図るため、医師の派遣を受けることを盛り込んだ。
- 8月19日 (情報錯綜) CNNによると、ロシア軍に占拠されたウクライナのザポリージャ原子力発電所で、原子炉につながるタービン室の内部にいるロシア軍の車両をとらえた動画がインターネット上で流れた。
- 8月19日 ウクライナを訪問した国連のグテーレス事務総長が、ロシア軍が占拠するザポリージャ原発について、「ウクライナ人のものだ」と述べ、電力の安定供給の必要性を訴えた。
- 8月19日 (情報錯綜) ロシアがウクライナ南部ザポロジエ州に設置した「軍民行政政府」幹部によると、ロシア軍が占拠する欧州最大のザポリージャ原発が立地するエネルゴダール市に、ウクライナ軍による2度の砲撃があったと主張した。ロシア通信が報じた。原発敷地には着弾しなかったとしている。
- 8月20日 (情報錯綜) ウクライナ当局が、ロシア軍が南部ボズネセンスクの住宅地をミサイルで攻撃したことを発表した。ボズネセンスクはウクライナ第2の原発である南ウクライナ原発から約30キロの地点にあり、ウクライナ国営原子力企業エネルゴアトムは、ロシアによる「新たな核テロ」と非難している。
- 8月23日 大飯原発3号機が、定期検査のために運転を停止した。運転再開は今年12月の予定。
- 8月23日 関西電力が、定期検査中の美浜原発3号機の原子炉の起動を延期した。1次冷却系統に設置されているホウ酸水タンクで21日、圧力が規定値を一時下回るトラブルがあったため。関電によると、原因の調査と対策を進めるため、運転再開時期は未定という。
- 8月24日 政府が、将来的な電力の安定供給に向けて次世代型原発の建設を検討する方針を公表した。原発の新增設や建て替えは想定しないとした従来のエネルギー政策の基本方針を転換して、最長60年としてきた原発の運転期間の延長も検討する。加えて、既に新規制基準の審査に合格している原発7基を追加で再稼働させることも目指す。

- 8月24日 英BBCが、ザポリージャ原発で懸念される原子力災害の危険性について、大規模な爆発が起きれば、放射線による被害は東欧諸国やロシア西部、ベラルーシにも及ぶ可能性がある」と報じた。
- 8月25日 IAEAが、ロシア軍が占領するザポリージャ原発に電力を供給する電線が一時切断されたものの、その後に復旧したとの報告を受けたと伝えた。
- 8月25日 政府と東京電力が、福島第一原発2号機で溶け落ちた核燃料の取り出しについて、目標としていた年内の作業開始を断念すると発表した。安全性と確実性を高めるために最長で1年半程度の準備期間を追加し、2023年度後半の開始を予定している。
- 8月26日 午前8時48分ごろ、天草灘を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは4.6と推定。鹿児島県長島町で震度4、熊本県天草市鹿児島県阿久根市、薩摩川内市、甕島、さつま町で震度3。
- 8月26日 ハンガリーが、ロシア国営原子力企業ロスアトムによる原子炉2基の新設計画について、数週間以内に着工する方針を発表した。契約は2014年に結ばれたが、承認は何度も先送りにされていた。
- 8月27日 (情報錯綜)ウクライナの国営原子力企業エネルゴアトムは、南東部のザポリージャ原発がロシア軍の砲撃を受け、放射能漏れの恐れが生じていると発表した。発射された17発の砲弾のうち4発が核燃料貯蔵施設の屋根に命中したとしている。断続的な砲撃により発電所のインフラが損傷し、水素漏れや放射性物質拡散の恐れがある。火災の危険性も高いともいう。放射線レベルは「正常」としている。一方で、ロシアとウクライナは、相手側が複数回の砲撃を加えたと主張し、非難している。
- 8月27日 ニューヨークの国連本部で開かれていたNPT再検討会議は、ロシアの反対で決裂し、最終文書の採択は叶わず、閉幕した。最終文書案の内容を改訂し、非公開で交渉が行われてきたNPT再検討会議は、ロシアが、占領しているウクライナのザポリージャ原発をめぐる記述について「政治的で、変更が必要」と反対し、採択できなかった。
- 8月28日 IAEAのグロッシ事務局長が、ザポリージャ原発について、ウクライナ側から「安全システムがすべて作動し、放射線レベルの上昇はなかった」との報告を受けたと発表した。
- 8月29日 日本時間午前7時34分ごろ、インドネシア沖でマグニチュード5.8の地震が発生した。
- 8月29日 原子力規制委員会と規制庁の幹部が、浜岡原発を4年ぶりに視察した。
- 8月29日 柏崎刈羽原発の重大事故を想定し、新潟県刈羽村で夜間のヘリを使った避難訓練が初めて行われ、住民12名が参加した。暗闇の中の訓練で避難の手順などを確認した。

- 8月30日 トラブルが相次いでいた美浜原発3号機の運転を再開した。当初、8月10日に運転を再開し、12日に発送電を再開する予定だった。
- 8月30日 欧州連合欧州委員会が、ザポリージャ原発で重大事故が起きた場合などに備え、甲状腺の被ばくを抑える安定ヨウ素剤の錠剤 500 万個超をウクライナに提供した。
- 8月30日 東京電力が、福島第一原発6号機の使用済み燃料プール内からの核燃料取り出しを開始したと発表した。取り出した燃料は敷地内の共用プールに移送し保管。2023年度中の完了を見込む。
- 8月31日 東京電力が、柏崎刈羽原発でテロ対策に必要な照明の一部が非常用電源に接続されておらず、停電が起きた際には明るさを確保できない状態だったと発表した。
- 8月31日 ザポリージャ原発の状況を調査するためウクライナを訪れている国際原子力機関のグロッシ事務局長の調査団が、ザポロジエ市に到着した。